

日本初のメタン削減飼料「ルミナツプ」

アナカルド酸をもつ植物は希少で、カシュー（カシューナッツの殻）のほかにはイチヨウ（ギンナンの果肉）が知られています。

実際、小林博士たちはギンナン最大産地の愛知県祖父江町から提供されたギンナン果肉で人工ルーメン試験を行い、カシューナッツ殻液に匹敵するメタン削減効果を確認しています。

ただ、すでに熱帯の数か国でカシュー産業が大規模に成立していることや、ナッツの殻が通常は廃棄されていることを考えると、量を集めやすいカシューナッツ殻液はメタン削減素材として非常に適しているといえます。

また、有史以前から人間の身近にあったものなので、安全である可能性も高く、監督官庁から家畜に食べさせる許可が得やすいという点でも優れています。

生きたウシを使った実証実験の結果を受けて、小林博士と出光興産の共同研究チームは、カシューナッツ殻液を含んだ混合飼料を開発・商品化し、2012年より「ルミナツプ」という名称で国内販売を開始しました（現在は、エス・ディー・エスバイオテックで販売）。えさのエネルギーのロスを抑え、アシドーシスなどの病気を防ぎ、そして地球温暖化の緩和につながる、日本初のメタン削減飼料です。

発売されたルミナツプは、最初のうちあまり注目されませんでした。メタンは無色透明のガスですから、削減効果が目には見えにくく、畜産農家もそのメリットをあまり感じられなかったようです。

しかし、出光興産の社員が日本各地の畜産農家をめぐって実際にルミナツプを試してもらおうという地道な活動を続けた結果、しだいに認知されていき、実際に使ってみるとたしかにウシが健康でよく育つことから、業界内で評判が広がってきました。

そして、ここにきて、世界的な地球温暖化と気候

